

小学校 第2学年 学級活動(2)指導案

平成27年11月13日(金)

児童数

指導者

1 題材 「あんぜんにひなんする方ほうを考えよう」

学級活動(2)カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材について

(1)児童の実態

本学級の児童は、授業中や休み時間に地震が発生した時の避難訓練は何度か経験してきている。(10月中旬に転校してきた男子1名は、本校での避難訓練は未経験)また、テレビや学校での学習によって近い将来南海地震が起こることも知っており、ほとんどの児童が真剣に訓練に取り組むことができています。しかし、揺れている時どんなことが起こるのか、また、揺れがおさまった後、状況を見てからどうしたらいいのかなど、知らないことがまだまだたくさんある。

生活科の町探検では、新荘小学校区の近場を回り、その際、避難場所の入り口や表示内容の確認をする活動を行っている。そのため、学校の近くの避難場所はどこにあるのかは、ある程度知っている。また、校内の避難訓練では、ヘルメットをかぶり、学校の近くにある岡本1区の避難場所まで走って逃げる訓練も繰り返し行っている。避難訓練の事前・事後の指導では避難の基本的な姿勢や行動のとり方について学習してきた。

7月にとった防災アンケートの結果は以下の通りである。

Q1. あなたは、地震が起きた時、自分の家のまわりでどんなことが起こるか知っていますか。

知っている7人 知らない1人

(建物が壊れる3人 津波がくる3人 ガラスがとんでくる1人)

Q2. あなたは、地震が起きた時に、揺れから自分の命を守る方法を知っていますか。

◆家の中にいるとき 知っている5人 知らない3人

◆外にいますとき 知っている5人 知らない3人

Q3. あなたは、地震が起きた後に、避難する安全な場所を知っていますか。

◆学校にいますとき 知っている7人 知らない1人

◆家にいますとき 知っている5人 知らない3人

今までに地震から自分の身を守る方法を学習してきたが、学習したことを忘れている児童や地震の後の被害についてははっきりと理解できていないことなどが結果からわかった。地震や津波に関する正しい知識を身につけ、地震が起こった際、冷静に判断し、自分の身を守るためにどのように行動しなければいけないのかという、防災学習を繰り返し行うことが大切であると感じた。そして、学習したことを掲示したり、ファイルに残したりして忘れないような取り組みも継続していきたい。

(2)題材設定の理由

私たちが住んでいる高知県土佐湾沖で、南海地震が発生するであろうと予測されている。南海地震は、約 100 年に一度起きると言われており、昭和の南海地震（昭和 21 年 12 月 21 日）から約 70 年が過ぎ、今後 30 年以内に 70%程度の確率で必ず起こるだろうと予想されている。また、本校は、昭和の南海地震の際も津波で大きな被害を受けた須崎市にあり、海岸からも近く、地震のあとは約 20 メートルの津波が来ると想定されている。

児童はこれまでに、地震や津波の起こるしくみや震度の違いによってどのようなことが起こるのか、自分の教室で学習している時はどう対処したらいいのかを学習してきた。しかし、地震はいつ起こるかわからない。休み時間や掃除の時など、自分の教室以外から避難しなければならない時には、どのように冷静に判断し、行動しなければいけないのかを学習し、自分の命は自分で守れる防災学習を深めていきたい。

そこで、本活動では、生活科で取り組んだ校舎内の危険な場所調べをもとに、自分の教室以外の場所でも、揺れから身を守る方法やできるだけ近くの安全な出入り口から避難する方法を考えさせていきたい。その際、火災や建物の崩壊によって普段の避難訓練の通りにいかないこともあることにも気づかせたい。また、キャリア教育の視点から、何か問題が起きた時にも、その場に応じた適切な判断や行動ができるような力を育てていきたい。

3 第 1 学年及び第 2 学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・アンケート調査に答え、自分の問題について考える。 ・校内防災マップを作る。	・児童の地震に関する意識をアンケートで調査する。 ・校舎内の安全に視点を置いて調べることで、危険個所に気づくことができるようにする。	【知識・理解】 ・校舎内の危険個所について理解している。 ＜観察・ワークシート＞ 【関心・意欲・態度】 ・校内防災マップで知った危険個所をもとに、自分の生活を振り返ろうとしている。 ＜観察・ワークシート＞

5 本時のねらい

○自分の教室以外の場所で地震が起こった時に、揺れから自分の命を守り、どのように避難するかを考えることができる。

キャリア教育でのつきたい力

◎何か問題が起きた時のことを考え、適切な行動をとることができるように考えることができる。

【課題対応能力】

6 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点 ☆キャリア教育視点での留意事項	資料	目指す児童の姿 と評価方法
導入	1. 地震の動画を見る。 ・校内防災マップについて振り返る。	・本時の意欲付けを図る。 ・生活科で作った「校内防災マップ」をもとに、校舎内の危険な個所を確認する。	動画 校内防災マップ	
展開	あんぜんにひなんする方ほうについて考えよう。			
	2. 揺れからの身の守り方について思い出す。 ・教室 ・トイレ ・図書室	・それぞれの場所にいた時、どのように身を守るかを考えるようにする。 ・教室（机にもぐる、机の脚を対角線にしっかり持つ） ・トイレ（戸を開ける、しゃがんで頭を守る） ・図書室（机にもぐる、机の脚をしっかりと持つ） ・頭を守ることが大切なことを思い出す。	写真	【思考・判断・実践】 ・地震が起きた時の揺れへの対応のしかたを考えている。 ＜発言＞
	3. 地震が校舎内で起こった時に、どのように避難すればよいのか考え、話し合う。 ・図書室 ・2階のトイレ ・6年教室	・ガラスが散乱している写真、靴箱が倒れている写真、図書室の本が散乱している写真等を見る。 ・写真を見て、スムーズに避難できない場合があることを知る。 ・1階の図書室、2階のトイレ、3階の6年教室にいる時の場合を考える。	写真	【思考・判断・実践】 ・地震が起きた時の避難のしかたを、様々な場面を想定して考えている。 ＜発言＞

	4. 安全に避難する方法を考え、発表する。	☆様々な場面を想定することで、避難する方法も様々であることに気づかせる。 ・安全な所から避難する方法を考るように助言する。 ・必ずしも玄関から避難するのではないことを押さえる。 ・できるだけ近くの出入り口から避難することを確認する。	ワークシート	
終末	5. 自分で決めたことについて実践への意欲をもつ。	・学習したことを生かし、どこにいても素早く安全に避難するように助言する。		

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・校内の避難訓練に参加する。 ・市内一斉避難訓練にできるだけ参加する。	・自分の身を守るために、安全に避難をすることができるようにする。 ・日々の生活の安全にも意識できるように、声かけをする。	【思考・判断・実践】 ・学習したことを生かし、素早く安全に避難をしている。 <観察・振り返りカード>

あんぜんにひなんする方ほうを考えよう

2 年 ()

(3 かい)

音楽室							
	図工室		6 年	りか室	わかあゆ①	5 年	

(2 かい)

4 年							
	3 年		わかあゆ②	2 年	トイレ	1 年	じどう会室

(1 かい)

図書室	げんかん									
	ほげん室	げんかん		トイレ	パソコン室	ちようろ室	トイレ	そごう	うきくさ室	校長室

ぼく、わたしは あんぜんにひなんするために、

にいたら

体いくかん